

脳梗塞

疑われたら一刻も早く受診を

看護師 藤島百合子
(外来看護)脳梗塞とは
どんな病気

一般的に『脳卒中』と呼ばれている脳血管障害のうちで「脳の血管が詰まる」病気です。

脳梗塞は、血の塊などで血管がふさがりその先の脳細胞に、酸素や栄養を運ぶことができなくなるために、脳がダメージを受けたり、部分的に死んでしまう病気です。

12月ですね、日増しに肌寒くなり、空気が乾燥してきて風邪やインフルエンザが心配な時季になりました。

歯科医師
妹尾ゆかり
(代々木歯科)

さんから、うがい薬を処方して欲しいという要請をよくされますが、私は基本的にはお断りしています。

歯科で大事なのは喉のガラガラ「うがい」ではなく、お口のフクフク「うがい」(ゆすぐ方)です。それでは「うがい」についてお話ししましょう。

うがいの効能

うがいの効能は水の乱流によって、細菌、ウィルスや、プロテアーゼというウィルスにかかりやすくなる物質が洗い流されることです。

うがい薬の種類

うがい薬は殺菌消毒用と消炎鎮痛用の2種類に分かれます。

うがい
殺菌効果の高い薬が善玉菌を壊す

緑茶や紅茶等の「うがい」がお勧め

—その12—



うがいはブクブクといぬい

イラスト・井上ひろ

についてまで言及するのはどうかとも思うのですが、ちょっとした書かせていただきます。

殺菌効果の高い薬が喉に常在する善玉菌を壊してしまい、自然の抵抗力を落としてしまう上、インジンなどは喉の粘膜を傷害することもあるとも言われています。

それよりも、カテキンが有効なので緑茶や紅茶での「うがい」が良いでしょう。他にはゴマ油での「オイルうがい」や、ハチミツや自然の塩をひとつまみ入れたるま湯

うがい薬の効果
歯医者の私が風邪予防

殺菌消毒用の薬はインジン、クロルヘキシジンなどが主成分で、喉や口の中の細菌、真菌、ウィ

—発生原因—

①「アテローム血栓性脳梗塞」→動脈硬化によって血管壁内部にアテローム(脂肪のかたまり)による血栓ができ、血管が詰まってしまうもの。

②「心原性脳塞栓症」→心房細動や心筋梗塞などにより心臓にできた血栓が脳に運ばれ、脳の血管が詰まるもの。

③「ラクナ梗塞」→高血圧などを原因として、脳の細い末梢血管に梗塞ができるもの。

—前兆とその症状—
「手足に力が入らな

い」「めまいがする」「いつもと違う頭痛がする」「手足や、体の半身がしびれる」「呂律が回らない、言葉が一瞬出てこない」「片側の視野が一時的に暗くなる」「物が二重に見える」などの、症状が現れることがあります。

このような症状が起これたら、できるだけ早く医療機関を受診しましょう。(脳梗塞以外の病気でも起こる症状なので鑑別診断の為に受診しましょう)

—予防と治療—
脳梗塞は加齢に伴って

での「うがい」がお勧めです。

〇〇

代々木歯科で最初に行うインジンの「うがい」

は総合的に口の中の菌を洗い流したいわけで、それを日常的に患者さんに行う善玉菌を壊してしまい、自然の抵抗力を落としてしまう上、インジンなどは喉の粘膜を傷害することもあるとも言われています。

それよりも、カテキンが有効なので緑茶や紅茶での「うがい」が良いでしょう。他にはゴマ油での「オイルうがい」や、ハチミツや自然の塩をひとつまみ入れたるま湯

—予防と治療—

加齢に伴って発症率が高くなる病気のため、完全に防ぐことは難しいですが、生活習慣に気を付けることで発症リスクを減らすことができます。

すなわち肥満、運動不足、喫煙、飲酒、ストレスなどの危険因子を減らすことが予防策として大切です。

発作が起きたり状況として寒い冬のトイレや入浴時の急激な温度差があります。また夏も要注意で、体から水分が失われる脱水症状になると血液が濃くなるために血栓ができやすくなります。

治療は血管内の血栓を取り除き、血流の再開をします。薬で血栓を溶かしたり、手術で血管を広げる治療を行うこともあります。

11月号の「医薬品のインターネット販売解禁について」の続編という感じでご覧ください。

2013年11月政府は市販薬(一般用医薬品)の99.8%のネット販売を解禁すると発表しました。これは、最高裁の「インターネットによる市販薬の販売規制は憲法違反」という判決(同年1月)を受けてつち、全面解禁せず、リスクの高い劇薬と、一部の新規薬品については解禁の対象外として扱うという、厚労省の見解です。残り0.2%には、市販薬として発売後3年以内の薬が含まれ、製薬会社とネット業者にとって目玉商品が規制対象となってしまう。

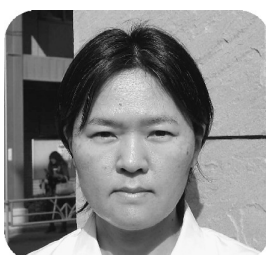
解禁推進側の三木谷氏(楽天)が「全面解禁でないなら政府の競争力会議民間議員を辞する」と政財界における自身の影響力を意識した発言をしていました。解禁慎重側の医師会と薬剤師会は、ネット販売における安全性の担保や偽薬混入などの対策が急務であると強調しつつも、一部規制が残ったことは「正直安堵した」とのことです。



渋谷区・石井和子

くすりの話あれこれ⁹⁰市販薬のネット販売99.8%解禁…
便利さの「つけ」がまわらぬように

間 規子 (薬剤師・たくみ外苑薬局)



売は黙認されていました。が、死亡例を含むリスクの高い第1や2類にまでネット販売が及ぶようになり、厚労省ではネット業者、医療関係者、被害者団体などの検討会を開催してきました。

解禁推進と反対の双方の意見が噛み合わないまま検討会は解散しましたが、その中で被害被害者から次のような訴えがありました。「ザリドマイドもキノホルム(薬害スモンの原因薬)も市販薬でも売られていました。薬害と証明するのに長い年月を費やしました。裁判は勝ったけど被害の苦しみは一生、今でも続いています」

薬の安全性はネット販売の利便性より尊重されるべきですが、情勢はネット販売全面解禁です。でも、先の薬害被害者の発言を思い出してください。経済発展の側面で健康被害が軽視される世の中を変える一つは、国民の薬の見方かもしれません。